

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：21014

学校名：盤溪小学校

	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	すべての種目において、札幌市および全国の平均値を上回る結果となった。また、総合評価のE判定が0%であることから、全体的にもレベルの高い結果であることが分かる。	特に数値が高かった種目 20m シャトルラン、立ち幅跳び、50m 走 全国平均並みの種目 握力	日常の「どんぐりトレーニング」や外遊び（サッカーやドッジボールなど）によって、体幹や下半身の筋力が強化され、持久力・走力。瞬発力の向上に繋がったと考える。
体力・運動能力 <女子>	ほぼ全ての種目で、札幌市および全国の平均値を上回る結果となった。総合評価のE判定が12.5%と、得意・苦手の二極化傾向が見られる。	特に数値が高かった種目 20m シャトルラン、立ち幅跳び、50m 走 全国平均を下回る種目 長座体前屈、上体起こし	継続的なマラソン練習の中で、他者と比べるのではなく、自分の目標に向かって努力する経験を積むことで、運動の楽しさにふれることができ、結果として、持久力の向上に繋がったと考える。
運動・スポーツへの意識、運動習慣	運動・体育に対するモチベーションが高い Q1「運動が好き」、Q9「体育の授業は楽しい」の項目において、男女ともに肯定的な得点の合計が100%に達している。全国平均と比較しても、全員が運動に対してポジティブな感情をもっているといえる。	運動習慣における「二極化」 Q5「1週間の総運動時間」において、男子は全国と比べても同程度の時間運動しているが、女子は全国と比べて極めて短い時間であることが明らかになった。このことから男女間で二極化している傾向が見られる。	運動時間が少ない層に対しては、保健の学習と関連付けながら、「週末に友達と公園で遊ぶ」「日常の歩行数を増やす」など、自分にできる運動習慣を身に付けられるようにしていく。

三つの取組	①体育・保健体育等の授業の充実	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組	③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組
-------	-----------------	-----------------------	---------------------

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○児童一人一人が運動の特性を味わえるような教材化を工夫し、課題意識をもち、自己の高まりを実感できる授業を実践していく。 ○ICTを活用することで、自分自身の課題をはっきりさせるとともに、仲間との交流の中で課題の解決を図っていく。 ○児童が見方・考え方を働かせ、運動との多様な関わりをもてるよう、指導の仕方を工夫していく。 ○振り返りを充実させ、児童が単元の見通しをもったり、自己調整に役立てたりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中休みに全校児童がグラウンドや広場を使って体を動かす取組(サッカー・ドッジボール・鬼ごっこ・縄跳び)を充実させる。 ○体育の学習「器械運動(跳び箱・鉄棒・マット運動など)」の時期を全校でそろえることで、休み時間にも挑戦できるようにし、子ども達の「もっとできるようになりたい」という気持ちを育む。 ○休み時間にボルダリングを開放することで遊びながら握力の向上を図れる環境を整える。 ○委員会のイベントでは、運動の楽しさに触れられる企画を立案・実現していく。 ○放課後スキーを継続していく。 ○冬の期間の外遊びデーの設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習「生涯スポーツ」の学習を通して、児童自らが自分の体力や身体のことについて知り、健康作りに取り組む態度を育成していく。 ○体力テストを2回実施することにより、自分の体力の成果と課題について考える。 ○各学年に応じた健康教育カリキュラムにより、健康づくりに必要な視点を養っていく。 ○養護教諭や栄養教諭による体と食の授業など、多方面からの指導を充実させていく。
--------	--	---	--

家庭・地域との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> ○オリンピック・パラリンピック教育推進事業への参加。 ○放課後遊びや、学年レクの実施。 ○放課後スキーの奨励。
--------------	---